

2 戦略テーマの展開

① 『生きる・まなぶ』
～のびやかな「とちぎ人」～

「人」は、すべての活動の源泉であり、地域の活力そのものでもある。しかし今、「人」としての生きがいや暮らしの質が問われ、一人ひとりの「心」のあり方を始め、人が生き、学びあい、はぐくまれる原点である「家族」のあり方、さらには、人や家族を取り巻く地域社会の結びつきのあり方が問われている。

本県では、地域を単位とするコミュニティが比較的良好に維持されてはいるが、全国状況と同様、子どもや青少年の「心」のあり方が大きな問題となっており、命に対する尊厳の念がゆらぎ、痛ましい事件も起きている。

これからの“とちぎ”づくりは、「人」と「家族」を起点として、人間尊重の視点から『生きる・まなぶ』ことのあり方を真剣に問い直すことから始まる。“とちぎ”に生まれ、暮らし、集う人々みんなが、のびのびと健康的かつ人間性豊かに、生きがいを持って暮らしていける人づくりや環境づくりを進め、性別や世代の違いを越えてお互いの存在を大切にする、“のびやかな「とちぎ人」”の育成を目指す。

② 『うみだす・活かす』
～明日を拓く産業・行政～

時代の転換期にあつて、これからの「知恵の時代」に対応した産業や、地方分権社会にふさわしい行政への変革、見直しが強く求められている。

全国的に見ると、本県の産業構造は誘致企業を中心とした製造業に大きく依存しており、今後、新たな成長産業の創出や、高度技術産業への転換、サービス業などの内発型産業の育成などにより、国際競争の激化や景気の変動にも強い、新たな付加価値を『うみだす』、持続可能な地域経済を構築していくことが必要である。

また、これからの行政には、地域社会の様々な人・企業・NPOなどの主体を結び『活かす』役割を担うことによって、地域づくりへの県民の積極的な参画を促しながら、新たな“とちぎ”づくりを展開することが求められている。

私たちは、地域経済や地域経営のあり方を根底から問い直し、地域にしっかりと根ざし、革新性と柔軟性に富む“明日を拓く産業・行政”の構築を目指す。



③ 『楽しむ・ふれあう』 ～夢ときめく交流社会～

産業・行政がもたらす物的、人的な財やサービスは、人や地域が「生きていく」ための必要条件であるが、それだけでは人として、地域としての「真の豊かさ」は満たされない。

より大切なことは、人々の暮らしに、日々新たな喜びや誇り、生きがいや励みといったみずみずしい「心の豊かさ」が息づき、ほかからも共感されるような個性と品格を備えた美しい“とちぎ”を創りだしていくことである。

こうした魅力が結晶して、“とちぎ”から、独自の誇り高い「文化」が生まれてくる。

こうした魅力や文化は、人々が『楽しむ・ふれあう』中から醸成されることから、そのための条件整備を“とちぎ”づくりの中に組み入れ、心の豊かさが躍動する“とちぎ”ならではの“夢ときめく交流社会”の創成を目指す。



④ 『つちかう・伝える』 ～未来にひきつく郷土～

人と社会の「いとなみ」を支える生活空間を、安全、魅力的で利便性の高いものとして、さらに、私たちの生活すべてを支える環境を持続可能なものとして、次世代に継承していくことは今を生きる私たちの責務である。

今後の社会資本整備や地域開発に当たっては、環境の制約や投資余力を踏まえ、環境にやさしい施設や地域を重点的・効率的につくっていくことが不可欠である。このためには、既存の社会資本や環境は地域みんなの共有財産であるということを再確認し、みんなの手で長持ちさせ、有効活用を図っていくことが重要になってくる。

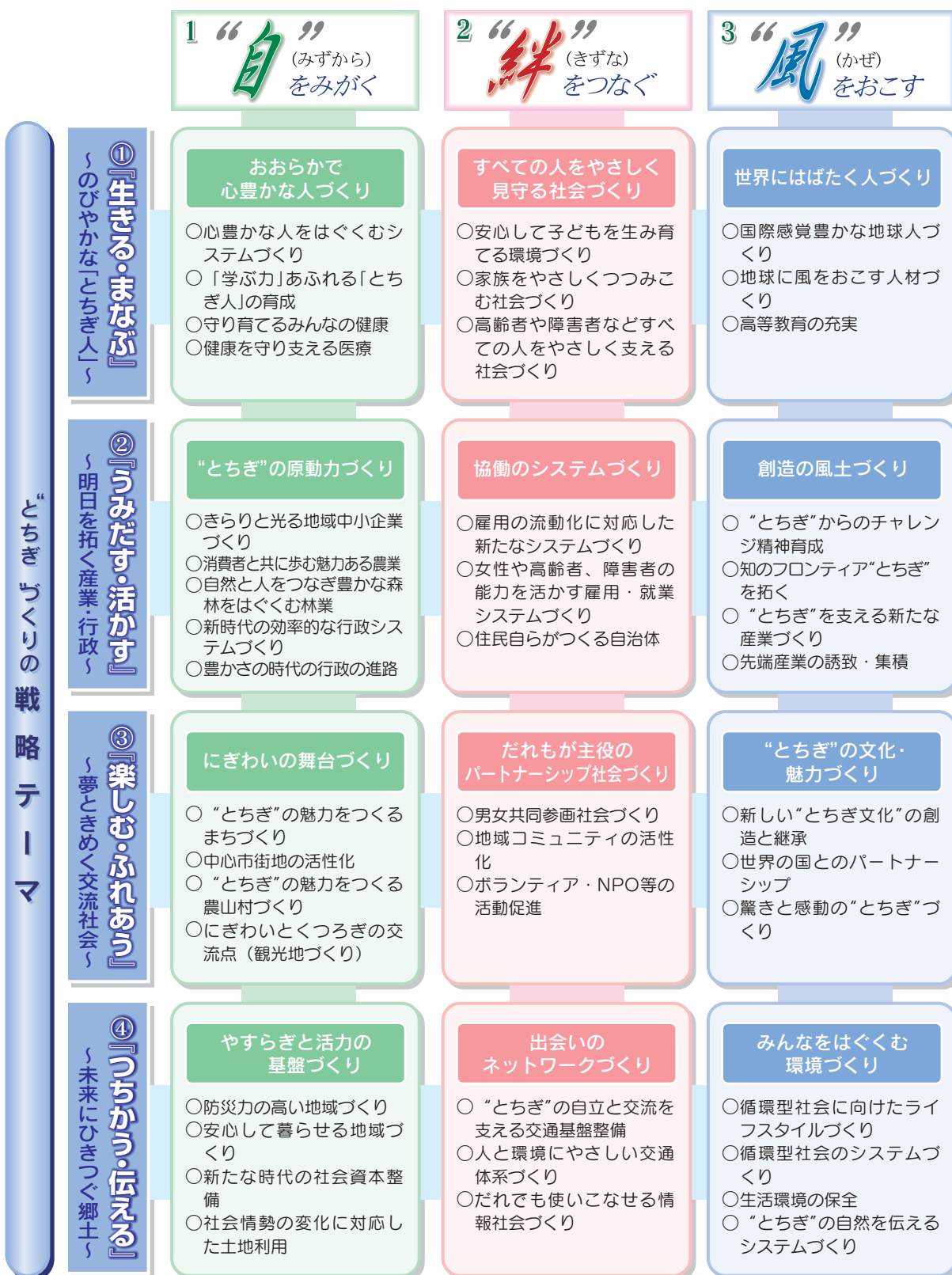
また、私たちの日常生活や社会活動により危機に陥っている環境を保全していくことはもとより、水や食料、エネルギーなど、私たちの生活に不可欠な資源について、環境の制約や安全性、安定性という観点を重視しながら、供給や利活用のあり方を長期的な視点から考えていくことが必要である。

“とちぎ”の魅力と可能性を十分に引き出しながら、私たちの安全・快適な暮らしをはぐくみ、私たちが誇りを持って“未来にひきつく郷土”の創出を目指す。



“とちぎ”づくりの取組方向 — 行動指針と戦略テーマによる政策の構築

“とちぎ”づくりの行動指針



“とちぎ”づくりの戦略テーマ